



表紙のことば

若草幼稚園では、年に1度、園児たちの足形をとり、土踏まずの形を測定しています。今回、足形測定をしたのは年中の35人。年少・年中・年長と3年間の記録をとり、土踏まずの変化や成長の様子を見守っていきます。この日は、お母さんたちもお手伝いに参加。園児たちは、お母さんたちの足形を見て「ちゃんと土踏まずがある！いっぱい歩いてるんだね」と歩くことや運動することの大切さを感じていました。

市民の動き

人口 / 85,547人 (前月比+131人)

(外国人登録者3,876人含む)

男性 / 43,225人 (前月比+82人)

女性 / 42,322人 (前月比+49人)

世帯数 / 29,736世帯 (前月比+78世帯)

平成19年6月1日現在

広報

ふくろい



袋井市の市章

2007年(平成19年)7月1日発行 第55号

編集・発行 / 袋井市役所総務部秘書広報課広報広聴係 千437-8666

静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1 TEL 0538-43-2111(代表)

【ホームページ】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>

【携帯サイト】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/i/>

【Eメール】

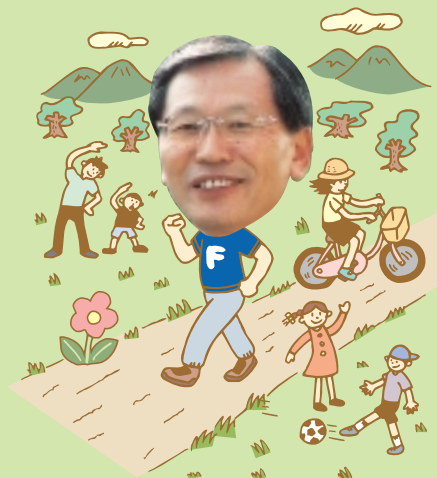
hisyo@city.fukuroi.shizuoka.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

原田市長の

さんぽみち

散歩道



市内には、外国人が約3,900人生活している。大半がブラジルからの人たちで、遠い地球の反対側から家族で働きに来ている。日本でも昭和初期までは、多くの家族が海外移住した。私が勤務したロサンゼルスでは、静岡県出身者が「南カリフォルニア静岡県人会」を作り、俳句や短歌、カラオケなどを楽しんでいた。年に1回、ガーディナ地区で開く総会には、1,000人を超す人たちが参加して駐在員の私が話す「静岡の現状」を懐かしそうに聞いてくれた。会の終わりには必ず全員で「ふるさと」を合唱した。今でもこの歌を聞くと、苦労の跡の顔のシワや目に浮かべた涙を思い出し、胸が熱くなる。移住したばかりのころの日本人

「海外からの隣人」

は英語も話せず、体も大きくないので、富裕層の家庭に住み込んで、庭仕事をした人が多かった。そのうちに生来の勤勉さと器用さで頭角を現し、庭師として独立して生計を立てた。それ故、日系人が多く住むこの地区名は、彼らの職業からガーディナ(庭師)となった。苦労した二世の自慢話は、子どもの事であった。自分の生活を犠牲にしても教育に力を注ぎ、その期待にこたえてよく勉強し、優秀な大学を卒業した子どもも大勢いた。なかでも、判事や銀行の重役

になった二世は、日系人社会の期待の星であった。気候から生活習慣まで、すべてが異なる他の国に家族そろって移り住むのは、並大抵の決意ではない。それでも、あえて故国を出て、外国で一生を過ごすことを選ぶ人たちがいることは今の恵まれた環境で生活している私たちには、なかなか理解できない。しかし、100年前から今日まで、相当数の日本人が海を渡り、ブラジルをはじめ南北のアメリカ大陸で周りの人々に助けられながら、大変な苦難を乗り越えて生活の基盤を築いた。今、ブラジルから来ている人たちに早く生活に慣れ、不安なく暮らせるように手を差し伸べるのは、世代を超えた恩返しのようにも思える。